



**(iii)実績(見込)値1が計画目標値に届かない理由**

- ・平成19年度の新規発行額について、建設改良事業費の補正により計画に対し60万円の増加となった。
- ・平成20年度の新規発行額について、計画では建設改良事業の予定はなかったが、臨時給水施設整備事業の実施により、170万円の増加となった。

**(iv)改善に向けた取組み及び今後の見通し**

- ・平成22、23年度の基幹改良工事にかかる新規発行額の減額が見込まれるため、計画最終年度の目標値は達成できる見通しである。



(iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

(iv)改善に向けた取組み及び今後の見通し



(iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

(iv)改善に向けた取組み及び今後の見通し

団体名	高知県奈半利町
会計名	簡易水道特別会計

## ⑥ 累積欠損金比率

## (i) 推移表

(単位:%)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)						
実績(見込)値(B)						
乖離値(C) (A-B)						
乖離率(D) (C/A)						

## (ii) 要因分析

(単位:百万円、%)

	計画最終年度(平成23年度)	
	計画目標値算出時(A)	実績見込値算出時(B)
分母(営業収益等)		
分子(累積欠損金)		
累積欠損金比率		

## 分母悪化要因

(単位:百万円)

要因	影響額(百万円)	備考
合計	-	

## 分子悪化要因

(単位:百万円)

年度	純損益		乖離値(A-B)	乖離要因
	計画目標値(A)	実績見込値(B)		
平成19年度				
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
合計			-	

(iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

(iv)改善に向けた取組み及び今後の見通し

団体名	高知県奈半利町
会計名	簡易水道事業特別会計

⑦ その他

(i) 計画及び執行状況の公表状況

計画については平成20年3月に、平成20年度執行状況については平成21年3月に当町ホームページで公表済み。平成21年度執行状況についても公表予定。

(ii) 計画及び執行状況の議会への説明

計画については平成20年3月に町議会で説明済み。平成20年度執行状況については説明ができていないため、平成21年度執行状況も含め次回に説明を行う。

## 公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

## I 基本的事項

## 1 事業の概要

特別会計名：奈半利町簡易水道事業特別会計

事業名	簡易水道事業		
事業開始年月日	昭和31年4月1日	地方公営企業法の適用・非適用	<input type="checkbox"/> 適用 <input checked="" type="checkbox"/> 非適用
団体名*	奈半利町	職員数* (H19. 4. 1現在)	1
構成団体名			

- 注1 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記する。
- 2 「職員数」欄には、当該事業に従事する全職員数を記載すること。

## 2 財政指標等

資本費	36(H18)	公営企業債現在高(百万円)	192(H18)
累積欠損金(百万円)	0	利益剰余金又は積立金(百万円)	0
不良債務(百万円)	0	財政力指数*	0.18(H18)
資金不足比率(%)	0	実質公債費比率* (%)	20.2(H19)
		経常収支比率* (%)	102.3(H18)

- 注 平成17年度（又は平成18年度）の公営企業決算状況調査、地方財政状況調査等の報告数値を記入する。なお、財政力指数、実質公債費比率及び経常収支比率は、当該事業の経営主体である地方公共団体の数記載し、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、その構成団体の各数値を加重平均しものを記載すること。（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）

## 3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

<input type="checkbox"/> 新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 <input type="checkbox"/> 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
〔合併期日：平成〇年〇月〇日 合併前市町村：〕

- 注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。
- 2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第1項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。
- 3 にレを付けた上で内容を記載すること。

## 4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

区分	内容
計画名	奈半利町簡易水道事業財政健全化計画
計画期間	平成19年度から平成23年度
計画策定責任者	奈半利町長 齊藤一孝
既存計画との関係	奈半利町集中改革プラン（平成17年度から平成21年度）
公表の方法等	町広報・ホームページでの公表及び議会での説明
基本方針	会計における独立採算の原則に立ち、施策の再構築と効率的な財政運営を推進し、経費の削減等、経営の健全化を図る。

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

I 基本的事項（つづき）

平成19年度承認分フォローアップ用

5 繰上償還希望額等

(単位：百万円)

区 分		年利5%以上6%未満	年利6%以上7%未満	年利7%以上	合 計
旧資金運用部資金	繰上償還希望額	—	—	28	28
	補償金免除額	—	—	5	5
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額	—	—	—	—
公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額	—	—	—	—

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整した補償金免除（見込）額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債	簡易水道事業	—	—	27,817	27,817
合 計 (A)		—	—	27,817	27,817
※ 上記のうち 一般会計負担分 (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)		—	—	27,817	27,817

【旧簡易生命保険資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高)	年利7%以上 (平成20年度9月期残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
※ 上記のうち 一般会計負担分 (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【公営企業金融公庫資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
※ 上記のうち 一般会計負担分 (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。  
2 必要に応じて行を追加して記入すること。

## Ⅱ 財務状況の分析

区 分	内 容
財務上の特徴	本町では、簡易水道施設2箇所のほか、山間部の5地区には飲料水供給施設を整備し、地理的な要因による資本的経費が多くなっている。本会計中、収益的収支については営業収益でまかっているが、資本的収支では、建設改良費については主に起債を充当しており、その償還金について、一般会計からの繰入金等により充当している。
経営課題	課題① 維持管理費等サービス供給コストの節減合理化 配水管の老朽化等に対応した、維持管理費の見直し
	課題② 資本的支出の抑制 起債償還計画を考慮した資本的支出の計画的な実施
	課題③ 給与と職員数の適正化 普通会計に準じ、当町の財政状況等を勘案した適正化
	課題④
	課題⑤
留意事項	

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等において経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、匠が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。

Ⅲ 今後の経営状況の見通し（②法非適用企業）

平成19年度承認分フォローアップ用

（1）収益的収支、資本的収支

（単位：百万円、％）

区 分		年 度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
			(計画前5年度)	(計画前4年度)	(計画前3年度)	(計画前々年度)	(計画前年度)	(計画初年度)	(計画第2年度)	(計画第3年度)	(計画第4年度)	(計画第5年度)	
			(決算)	(決算)	(決算)	(決算)	(決算見込)						
収益的 収入	1 総 収 益 (A)		36	35	39	39	39	43	34		36	36	
	(1) 営 業 収 益 (B)		31	35	35	35	36	35	34		36	36	
	ア 料 金 収 入		31	35	35	35	36	35	34		36	36	
	イ 受 託 工 事 収 益 (C)		0	0	0	0	0	0	0		0	0	
	ウ そ の 他		0	0	0	0	0	0	0		0	0	
	(2) 営 業 外 収 益		5	0	4	4	3	8	0		0	0	
	ア 他 会 計 繰 入 金		2	0	4	4	3	8	0		0	0	
	イ そ の 他		3	0	0	0	0	0	0		0	0	
	2 総 費 用 (D)		34	33	30	31	35	30	31		28	32	29
	(1) 営 業 費 用		24	24	21	23	27	22	26		23	27	24
ア 職 員 給 与 費		4	5	5	5	6	6	6		5	6	6	
うち退職手当		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
イ そ の 他		20	19	16	18	21	16	20		18	21	18	
(2) 営 業 外 費 用		10	9	9	8	8	8	5		5	5	5	
ア 支 払 利 息		10	9	9	8	8	8	5		5	5	5	
うち一時借入金利息		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
イ そ の 他		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
3 収 支 差 引 (A)-(D) (E)		2	2	9	8	4	13	3		8	4	7	
資本的 収入	1 資 本 的 収 入 (F)		15	17	24	10	12	35	37		39	36	
	(1) 地 方 債		0	0	13	2	2	6	2		23	23	
	(2) 他 会 計 補 助 金		15	8	11	8	10	29	2		2	1	
	(3) 他 会 計 借 入 金		0	0	0	0	0	3	0		15	12	
	(4) 固 定 資 産 売 却 代 金		0	0	0	0	0	0	0		0	0	
	(5) 国（都道府県）補助金		0	9	0	0	0	0	1		0	12	
	(6) 工 事 負 担 金		0	0	0	0	0	0	0		0	0	
	(7) そ の 他		0	0	0	0	0	0	0		0	0	
	2 資 本 的 支 出 (G)		15	22	33	16	16	46	11		7	43	43
	(1) 建 設 改 良 費		5	11	22	5	5	6	3		0	35	35
うち職員給与費		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
(2) 地 方 債 償 還 金 (H)		10	11	11	11	11	40	8		7	8	8	
(3) 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
(4) 他 会 計 へ の 繰 出 金		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
(5) そ の 他		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
3 収 支 差 引 (F)-(G) (I)		0	-5	-9	-6	-4	-11	-6		-7	-6	-7	
							=7	=5		=7	=4	=7	

(単位:百万円, %)

区 分	年 度										
	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	
収 支 再 差 引 (E)+(I) (J)	2	-3	0	2	0	2	-3	1	-2	0	
積 立 金 (K)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
前 年 度 か ら の 繰 越 金 (L)	1	3	0	0	2	2	4	1	2	0	
前 年 度 繰 上 充 用 金 (M)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
形式収支 (J)-(K)+(L)-(M) (N)	3	0	0	2	2	4	1	2	1	0	
翌 年 度 へ 繰 り 越 す べ き 財 源 (O)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実 質 収 支	3	0	0	2	2	4	1	2	1	0	
黒 字 (P)											
(N)-(O)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
赤 字 比 率 ( $\frac{(Q)}{(B)-(C)} \times 100$ )	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
収 益 的 収 支 比 率 ( $\frac{(A)}{(D)+(H)} \times 100$ )	82	80	95	93	85	61	87	103	90	97	
地 方 財 政 法 施 行 令 第 20 条 第 1 項 に よ り 算 定 し た 資 金 の 不 足 額 (R)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益 (B)-(C) (S)	31	35	35	35	36	35	34	36	36	36	
資 金 不 足 比 率 ((R)/(S)×100)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
積 立 金 現 在 高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
企 業 債 現 在 高	214	203	204	198	192	158	152	145	160	175	
うち建設改良費・準建設改良費に係るもの	214	203	204	198	192	158	152	145	160	175	
うちその他に係るもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

## (2) 他会計繰入金

(単位:百万円)

区 分	年 度										
	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	
収 益 的 収 支 分	2	0	4	4	3	8	0	0	0	0	
うち基準内繰入金	2	0	4	4	3	4	0	0	0	0	
うち基準外繰入金	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	
うち料金収入に計上すべき繰入等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
うち赤字補てん的なもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
資 本 的 収 支 分	15	8	11	8	10	29	2	0	2	1	
うち基準内繰入金	6	7	8	5	5	5	3	0	3	0	
うち基準外繰入金	9	1	3	3	5	24	0	0	0	0	
うち赤字補てん的なもの	0	0	0	0	0	0	0	12	0	12	

## (3) 経営指標等

平成19年度承認分フォローアップ用

(単位:%)

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)
資金不足比率 (%) (再掲)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
料金回収率※ (%)	84	95	119	107	94	57	91	102	106	102
総収支比率(法適用) (%)										
経常収支比率(法適用) (%)										
営業収支比率(法適用) (%)										
累積欠損金比率(法適用) (%) (再掲)										
収益的収支比率(法非適用) (%) (再掲)	82	80	95	93	85	54	92	103	90	97
不良債務比率(法適用)又は 赤字比率(法非適用) (%) (再掲)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
繰入金比率	収益的収入分 (%)	12	0	28	34	26	22	0	0	0
	うち基準内繰入金 (%)	12	0	28	34	26	11	0	0	0
	うち基準外繰入金 (%)	0	0	0	0	0	11	0	0	0
	うち料金収入に計上すべき繰入等 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち赤字補てん的なもの (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資本的収入分 (%)	87	100	72	66	74	78	0	0	0
	うち基準内繰入金 (%)	35	88	49	43	35	13	0	0	0
	うち基準外繰入金 (%)	52	12	23	23	39	65	0	0	0
うち赤字補てん的なもの (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

## (1) 資金不足比率 (%)

ア 地方公営企業法適用企業の場合＝地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益－受託工事収益) × 100

イ 地方公営企業法非適用企業の場合＝地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益－受託工事収益) × 100

## (2) 総収支比率 (%) = 総収益 / 総費用 × 100

## (3) 経常収支比率 (%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

## (4) 営業収支比率 (%) = (営業収益－受託工事収益) / (営業費用－受託工事費用) × 100

## (5) 累積欠損金比率 (%) = 累積欠損金 / (営業収益－受託工事収益) × 100

## (6) 収益的収支比率 (%) = 総収益 / (総費用＋地方債償還金) × 100

## (7) 不良債務比率(又は赤字比率) (%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益－受託工事収益) × 100

## (8) 繰入金比率 (%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

## 2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあっては使用料回収率)について記載すること。

## (1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・料金回収率 (%) = 供給単価※1 / 給水原価※2 × 100

※1 供給単価 (円/m<sup>3</sup>) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)※2 給水原価 (円/m<sup>3</sup>) = (経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算  
但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金＋減価償却費)＋企業債償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用－(受託工事費＋基準内繰入金)＋地方債償還金) / 年間総有収水量

## (2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・使用料回収率 (%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

条件項目	収支見通し策定に当たっての考え方（前提条件）
1 料金設定の考え方、料金収入の見込み	平成15年度に料金を改定。
2 他会計繰入金の見込み	基準内繰入金のほか、必要に応じ一般会計からの繰入を行う。
3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み	飲料水供給施設の改修が平成19年度まで計画されている。 今後の計画としては、災害時の一時給水施設の整備(平成20年度実施)と、平成22年度以降で簡易水道の基幹改良工事を見込んでいる。
4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの	

- 注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定（前提条件）について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。  
2 必要に応じて行を追加して記入すること。

IV 経営健全化に関する施策

平成19年度承認分フォローアップ用

項 目	具 体 的 内 容
1 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減	課題③
○ 地方公務員の職員数の純減の状況	職員は1名体制を維持。 集中改革プランは普通会計を含む全体で計画。(一部事務組合の解散により2名の編入があり、H21年度において目標値を1名上回るが、H22～H23年度については集中改革プランの目標値を維持している。)H21.4.1現在56人で以降の採用を考慮しても集中改革プランの目標値を維持している。
○ 給与のあり方	
◇ 国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方	国と同じ給料表を使用。 独自のカット、7%削減(H17,18)3%削減(H19～)
◇ 技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方	該当なし。
◇ 退職時特昇等退職手当のあり方	特別昇給なし。
◇ 福利厚生事業のあり方	加入組合において、平成17年度中に見直し済。
2 物件費の削減、指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用等	課題①
○ 維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組	建設改良事業において、水道設備の老朽度調査による計画的修繕を実施することとし、更に南海地震対策も図りつつ長寿命化を図る。これらの取組みにより、今後の維持修繕に係る経費への削減に努める。また、これらの取組みによる有収水量の改善を図るものである。(ただし、有収水量の改善としては少額のため、V表2改善額への経常はしていない。)
○ 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用	検針及び集金と、飲料水供給施設の管理について住民に委託し、職員は1名体制として人件費を縮減している。

#### IV 経営健全化に関する施策（つづき）

項 目	具 体 的 内 容
3 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保  <input type="checkbox"/> 料金水準が著しく低い団体にあつては、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組	平成15年度引き上げ実施。 基本料金510円→600円 超過料金51円→60円/m <sup>3</sup>
4 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入  <input type="checkbox"/> 経営健全化や財務状況に関する情報公開  <input type="checkbox"/> 行政評価の導入	ホームページ及び町広報で公表。
5 その他	

注1 上記区分に応じ、「II 財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 上記に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善額の算出が可能な項目については、「V 繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標等」にその改善額を記入。なお、当該改善額が対前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減など）については、当該改善額の算出方法も併せて上記各欄に記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う経営改革促進効果

平成19年度承認分フォローアップ用

1 主な課題と取組み及び目標

課題	取組み及び目標
1 職員数の純減や人件費の総額の削減	課題③ 職員数1名を維持。 また、独自の給与カットを実施している。(7%削減H17,18、3%削減H19,20)
2 経営効率化や料金適正化による繰越欠損金の解消等	課題① 検針、集金業務と飲料水供給施設の管理を住民に委託している。 建設改良事業において、水道設備の老朽度調査による計画的修繕を実施することとし、更に南海地震対策も図りつつ長寿命化を図る。これらの取組みにより、今後の維持修繕に係る経費への削減に努める。また、これらの取組みによる有収水量の改善を図るものである。(ただし、有収水量の改善としては少額のため、V表2改善額への経常はしていない。)
3 一般会計等からの基準外繰出しの解消等	
4 その他	

注1 上記各項目には、IIで採り上げた経営課題に対応する取組としてIVに掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標等 ※ 次頁以下(1)から(5)までの各事業別様式を参考に、以下の考え方に沿って策定すること。

(各事業共通留意事項)

1. 次頁以下の各事業別様式は、「年度別目標」を策定するに当たって参考となるよう例示的な様式を示したものであり、2に掲げた項目以外は必ずしも全ての項目に記入を要するものではなく、各団体の状況にあわせて記入可能な項目のみ記入し又は独自の取組に応じた項目を立てて記入することは差し支えないものであること。
2. 各事業別様式は参考例示ではあるが、各様式中の「目標又は実績」欄の項目のうち、職員数、行政管理経費(人件費、物件費、維持補修費等)に該当する項目並びに累積欠損金比率及び企業債現在高は、目標策定に際して必須項目とされているので漏れないよう留意すること。なお、これらの項目のうち、職員数、行政管理経費については、各団体(事業)の取組状況に応じて、適宜、細分化(例:職員数に区分、正職員と臨時職員とを分離計上等)することは差し支えないこと。
3. 「目標又は実績」欄の項目中、「職員数」については、前年度との比較によりその増減数を各年度の「増減数」欄に計上するとともに、計画期間中の「増減数」の合計は「計画合計」欄に計上し、計画前5年度の「増減数」の合計は「計画前5年間実績」欄に計上すること。
4. 「目標又は実績」欄の項目の見直し施策実施に係る「改善額」は、原則として、当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後も継続するものとして、その後の各年度に計上すること。
5. 4による「改善額」が対前年度との比較により算出できない項目、その改善効果が単年度に限られる項目(資産売却益、工事コスト縮減等)については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上すること。またその場合の改善額の算出方法について、IVの当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。
6. 計画期間中に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画合計」欄に計上すること。また、計画前5年間に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。
7. 「改善額 合計」欄及び「計画前5年間改善額 合計」欄には、それぞれの期間に係る人件費(退職手当以外の職員給与費)その他改善額を計上することが可能なものの合計(「計画合計」及び「計画前5年間実績」それぞれの合計)を記入すること。その際、同一項目に係る内訳に相当するもの等を重複計上することのないよう留意すること。
8. 「(参考) 補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額(補償金免除(見込)額)であり、Iの「5 繰上償還希望額等」に記入した「運用部資金」の「繰上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。
9. 以上の他、各事業別様式において、記入を求められている経営指標その他の項目等については各事業別様式の指示(留意事項)に従うこと。
10. 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う経営改革促進効果（つづき）

平成19年度承認分フォローアップ用

2 年度別目標等

(1) 水道事業

① 年度別目標

(単位:百万円、%)

課題	目標又は実績	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	計画前5年間 実績	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	計画合計
<b>【収入の確保】</b>													
	料金改定率		17%										
	改善額(料金の適正化)※1		4	4	4	4	16	0	0	0	0	0	0
	一般会計負担金の額												
	改善額(負担金の確保等)												
<b>【経費の削減】</b>													
1	職員給与費の適正化												
	職員給与費(退職手当以外)												
	改善額												
	給与水準												
	改善額												
	その他(給与カット)				-7%	-7%		-3%	-3%				
	改善額				0.2	0.2	0.4	0.1	0.1				0.2
	職員給与費(退職手当)												0.1
	職員数(人)	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	
	増減数(人)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	維持管理費等	20	19	16	18	21		16	20	18	21	18	
	改善額(適正化)		1	4	2	-1	6	5	1	3	0	3	12
	累積欠損金比率	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
	増減												
	企業債現在高	214	203	204	198	192		158	152	145	160	175	
	増減		-11	1	-6	-6		-34	-6	-7	15	15	
	計画前5年間改善額 合計						22.4						12.2
	改善額 合計												8.1
	(参考) 補償金免除額												5

注1 「課題」欄については、「1 主な課題と取組み及び目標」の「課題」欄の番号を記入すること。

注2 ※1「改善額(料金の適正化)」については、「料金改定に伴う料金増収額」を記入すること。

注3 ※2「工事コスト」については、工法の見直し等による建設コストの縮減(建設改良費の抑制は除く。)を記入すること。

注4 改善額の算出方法については、IVの当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。

注5 必要に応じて行を追加して記入すること。また、会計規模により必要に応じて単位を百万円から千円に変更することも可とするが、「改善額合計」を算出する際の単位誤り、誤計上(重複計上等)がないよう留意すること。

② 経営状況

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)
給水人口(千人)	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4
年間総有収水量(千m <sup>3</sup> )	567	594	570	540	540	534	515	540	540	540
公称施設能力(m <sup>3</sup> /日)	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836
1日最大配水量(m <sup>3</sup> /日)	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
最大稼働率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
供給単価(円/m <sup>3</sup> )	55	60	60	65	66	66	66	67	67	67
給水原価(円/m <sup>3</sup> )	65	63	51	61	70	77	76	65	73	65

③ 簡易水道事業の統合に係る基本方針

注 「統合計画の概要・実施スケジュール」又は少なくとも「検討体制・実施スケジュール、検討の方向性、結論をとりまとめる時期」を具体的に記載すること。

--